

都市は自然から“いのち”を与えられる

確かな都市ビジョンを持ち 身近な環境から創造する



辰巳 琢郎

俳優 タレント
京都大学 文学部卒業 高校時代から劇団「卒塔婆小町」で活躍 制作も手がけるNHKの朝ドラ「ロマンス」「天花」等に出演 「くいしん坊!万才」「平成教育委員会」等で博学ぶりを発揮

特集 鼎談

ていだん



石川 幹子

慶應義塾大学 環境情報学部教授
東京大学農学部卒業
ハーバード大学デザイン学部
大学院修了
専攻 緑地学 都市計画 環境デザイン
河川審議会委員
東京都都市計画審議会委員など



丸茂 喬

「ランドスケープデザイン」編集長
東京造形大学 ビジュアルデザイン学科卒業
環境芸術作家活動ののち
建築雑誌「A+U」編集担当
マルモ出版設立
「ランドスケープデザイン」
「My Garden」を発売

都市は文明の時代から文化の時代へ

丸茂 都市機構は都市をいかに再生するかを使命の一つとして発足したわけですが、現代の都市再生は自然に大きく依存せざるを得ないと思うのです。人間も含めてさまざまな生き物が生きられる都市をどうつくるか、自然といっても人の



京都・慈照寺 革新的な庭園 銀沙灘(ぎんしゃだん)と観音殿(銀閣)

の場として糧を得ていた里山の自然、都市のなかの公園とか緑地という管理されている自然、そして最も身近かな住まいの庭といった小さな自然もあります。それらに対する人々の考え方も行動も最近随分変わってきたと思うんですが、辰巳さんに自然を暮らしにうまく取り入れて成長してきた古都京都のお話から伺いましょうか。

辰巳 京都はやはり1200年という長い歴史を綴ってきていますから、それはもうたくさんの方が住み継いできたわけですが、もちろんその分、亡霊とか怨霊もたくさん棲みついているんですが(笑)。いわば混沌とした都市、それが人間的で魅力に溢れているんですよ。都市に自然を取り入れるとよくいわれますが、私はその発想自体がおこがましいなと思

ますね。人は自然の一部ですから、自然のなかに住まわせてもらっているという感覚を、まちをながくやっていると京都の人たちはみんな持っています。けれども東京は、人間が一番で、自由になんでもやれると考えているふしがある。かなり乱暴な言い方ですけど京都は文化のまち、東京は文明のまちではないでしょうか。



玄関へいざなう石畳 打ち水と灯りが美しい

がやはり京都をはじめ日本の都市をこわし続けていますね。ヨーロッパの歴史的な都市は車を中心部へ入れないので、いつも随分不便ですけど、それをよしとする意識と価値観が確立されているようですね。日本でも芽生えています。総論賛成各論反対でまだまだ実現への力が足りない、日本では車が産業の中核となつて国を引っ張ってきた。そういう背景があるからでしょう。

樹齢を重ねた松 広大な芝生 美しい皇居前広場

国をどうにかたちらにするのか、都市をどう構築するのかといった理念やビジョンが十分ではない、というか、なすすぎます。ソウルの出来事は都市に対する行政や市民の高い見識が示されていますね。

石川 さまざまな都市再生プロジェクトに関わってきていますが、その場その場を繕ういわばパッチワークなんです。それぞれの都市をどうするのかという哲学とビジョンが不在です。いま東京の皇

都心の風景として評価されているお濠端

沙灘(ぎんしゃだん)と呼ばれ白砂の造形をあしらった庭園は日本の庭園の歴史を転換させたほどのすばらしいものです。辰巳さんのお話の怨霊を鎮めるという願いもこめられていて、当時の日本の精神文化の深さ、人間の内面の豊かさを自然に託して表わしています。

辰巳 同じ室町時代に盛んになった能の世界は死人や怨霊だらけでしょ。いくら栄華を極めても人生は儚いとか、人間の弱さとかを示しているのじゃないか。

丸茂 時の権力者というのは、権力闘争の中でさまざまな人を殺めていますから、寺院とか庭園を作って懺悔し、また自らの心も癒したのでしょう。

辰巳 寺院も庭園も、都市のなかの自然ということでも大きな役割を果たしています。庶民の暮らしでも町家に坪庭を設けたり盆栽を育てたり、自然を生み出し、自然と生きていますよね。

丸茂 自然における公家の文化が庭園とすれば、町衆の文化が町家なんじゃないか。間口が狭く奥行きが長い、その間に坪庭をとって水と緑をあしらった風を通す、まちなかで自然をどう活かすか、すぐれ

た暮らしの知恵だと思います。

辰巳 千年の古都といいますが、その間に蓄積した都市の感性と技がまだまだ生きています。雑誌やテレビドラマにしても、日用雑貨や食品にしても、京とか京都とつけると確実に売れるそうです。四季の自然の移ろいを巧みに映しだしているからでしょうね。崩れつつあるとはいえ日本での京都のシンボル性や人々のあこがれは失われていないし、それに応えるだけのデザインや品質を保っていて、こういうことがほんものの都市の力なのでしょう。

ドラスチックでない 日本の都市は蘇らない

丸茂 東京はその力がまだ熟していない。辰巳 江戸時代にはそういう力が十分あったんじゃないかと思っています。それが明治維新以降急速な西洋文明化の中で崩され、戦争で負けて自信もなくなり、高度成長の中でつまらないまちになってしまったんじゃないか。



いままでの清溪川高架高速道路(ソウル)



水と緑で甦る清溪川(同地点の完成予想図)



モニュメントとして残される橋桁

石川 政治力ですね。市長が公約して実現しました。来年の10月に竣工が予定されています。都市の誇りを取り戻すか、渋滞解消をめざすか、市民は誇りを選んだというのがすばらしいですね。すべてを民主的に解決してみんなが満足を得る方法なんてないわけ、なにを優先し、なにを犠牲にするか、その選択こそ重要なことではないか。

辰巳 いまをとるか、将来をとるか。

丸茂 そうですね、日本でも行政が少々独断的でも、あるべきビジョンと方向を見据えて決断実行する強いリーダーシップが必要なのではないか。

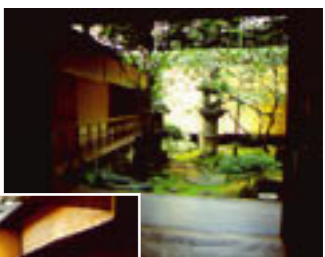
辰巳 残念なことには日本ではまだ、この



居周辺の緑と水を根本的に考え直し、首都の顔として再生するために、NPOを立ち上げました。

辰巳 どんなことをおやりになるんですか。

石川 ニューヨークのセントラルパークやパリのブローニュの森等は、それぞれの都市を象徴する森です。東京には、そのまさに中央に、自然度の高い大規模な歴史的な森が存在していることを、多くの人びとが気づく必要があります。この森をもっといきいきと使うにはどうすべきか、バラバラに管理している国や官庁、民間と周りの街が一体になってビジョン



典型的な京町家 坪庭へ風が吹き抜ける



坪庭には灯籠 つくばいが配される いずれも中京・吉田邸